

3. 河川の特徴

○石川

(1) 石川上流部（天見川合流点より上流）

石川上流部は、山間部を蛇行しながら流下しており、山地の樹林が河岸まで迫り河川と一体となった良好な河川環境を形成しています。河川は、瀬と淵が連続して出現し、変化に富む流れとなっています。川幅は約15～30m程度、河床勾配が約1/30～1/65程度であり、一部岩が露出しています。最上流部には、洪水調節、灌漑用水及び水道水の確保などを目的とした滝畑ダムがあります。

(2) 石川中流部（佐備川合流点から天見川合流点）

石川中流部は、川幅は約30～200m程度で、高橋より下流から川幅が広がります。河床勾配は約1/200～300程度であり、住宅地と田園地帯の中をゆるやかに蛇行する流れとなっています。また河道内は平瀬と取水堰による湛水域が形成され、部分的に形成された砂州には植物が繁茂しています。

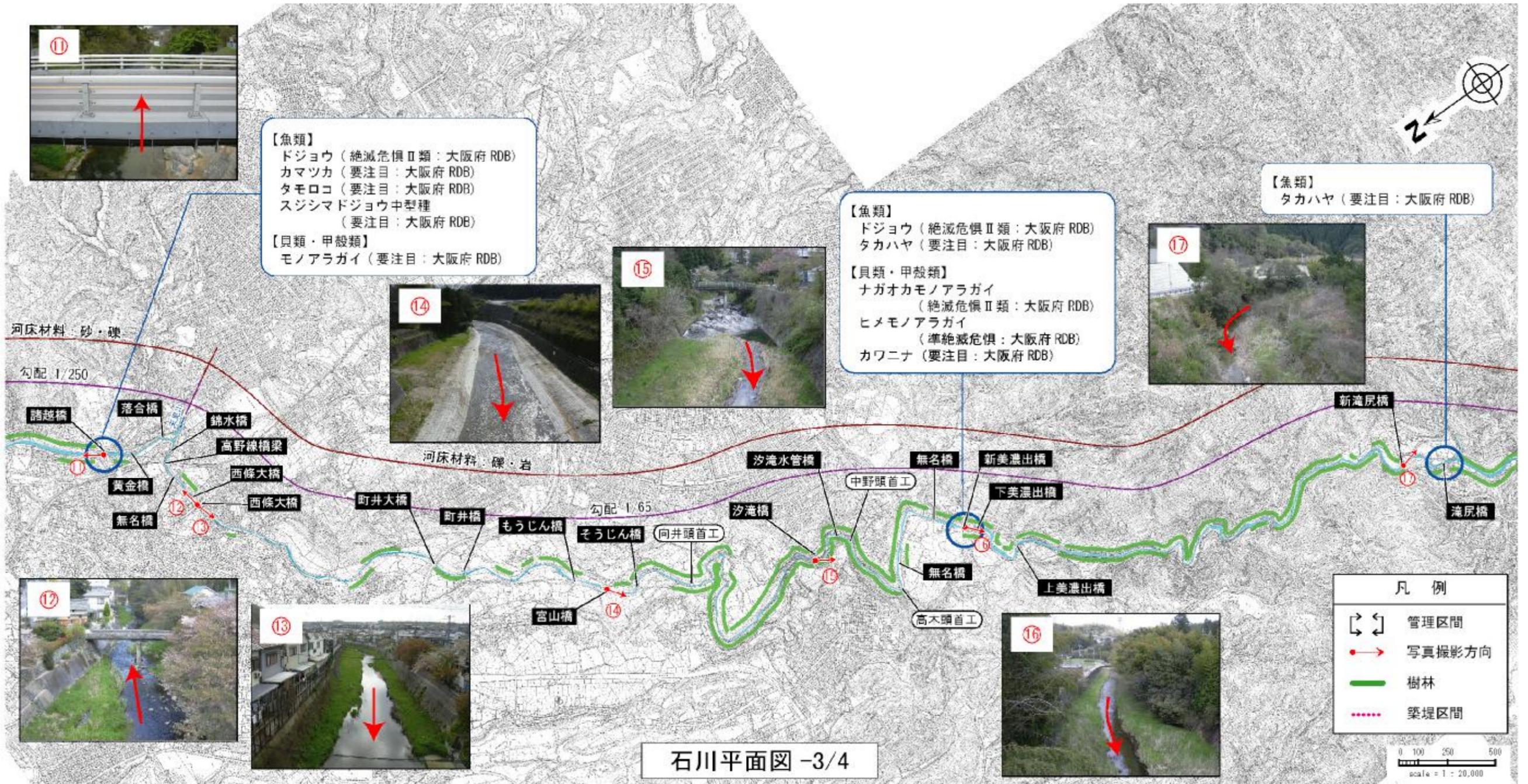
(3) 石川下流部（石川橋から佐備川合流点）

石川下流部の石川橋から佐備川合流点は、川幅が約200～350m程度と広く、特に、梅川合流点付近の川幅は約350m程度となっています。河床勾配は約1/400程度と緩く、ゆったりとした流れとなっています。また、取水堰が多くその湛水域となる区間が多く見られます。また、広い高水敷を利用して「あすか歴史の里」、「あすか花回廊」、「自然ゾーン」などを有する河川公園が整備され、特に「自然ゾーン」では、多様な自然環境が形成されています。湛水域となる区間が多く見られます。また、広い高水敷を利用して「あすか歴史の里」、「あすか花回廊」、「自然ゾーン」などを有する河川公園が整備され、特に「自然ゾーン」では、多様な自然環境が形成されています。





出典：石川河川公園パンフレット





<滝畑ダム>

滝畑ダム諸元	
河川名	大和川水系石川
位置	河内長野市滝畑地先
流域面積	22.9km ²
防災面積	542ha
かんがい面積	399.5ha
地質	半花崗岩
型式	曲線重力式コンクリートダム
堤高	62.0m
堤頂長	120.5m
堤頂幅	4.0m
堤体積	約84,500m ³
湛水面積	52.3ha
湛水延長	約2.4km
満水位標高	EL269.80m
設計堆砂位	EL245.0m
ダム天端標高	EL274.0m
総貯水容量	9,340,000m ³
有効貯水容量	8,018,000m ³
洪水調節容量	3,405,000m ³
利水容量	4,613,000m ³
死水容量	1,322,000m ³

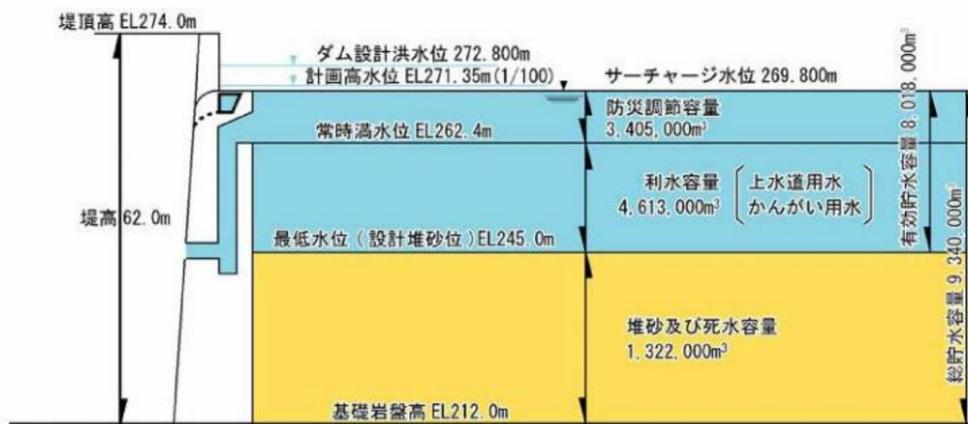


図 貯水池容量配分図

<滝畑ダムの機能>

1. 洪水調節

ダム流域の日雨量確率 1/50 年降雨（日雨量 289.1 ミリ、時間雨量 66 ミリ）の豪雨時に総流出量の 67% をダムに貯留し、下流石川沿岸の洪水による農業被害等を未然に防止するもので総調節容量は 3,405,000m³ となっています。

2. 河川維持用水

石川の環境を保全するため、かんがい期 0.189m³/sec、非かんがい期 0.115m³/sec を放流しています。

3. 水道用水

河内長野、富田林漁師の上水道水源として、計画給水人口 288,300 人のうち約 10 万人を対象に最大 43,750m³/日を給水しています。

4. かんがい計画

石川を水源とする羽曳野市、藤井寺市等石川沿岸の耕地 400ha の用水を確保するも出、ダム貯水容量のうち利水の 4,613,000m³ から石川に直接放流しています。

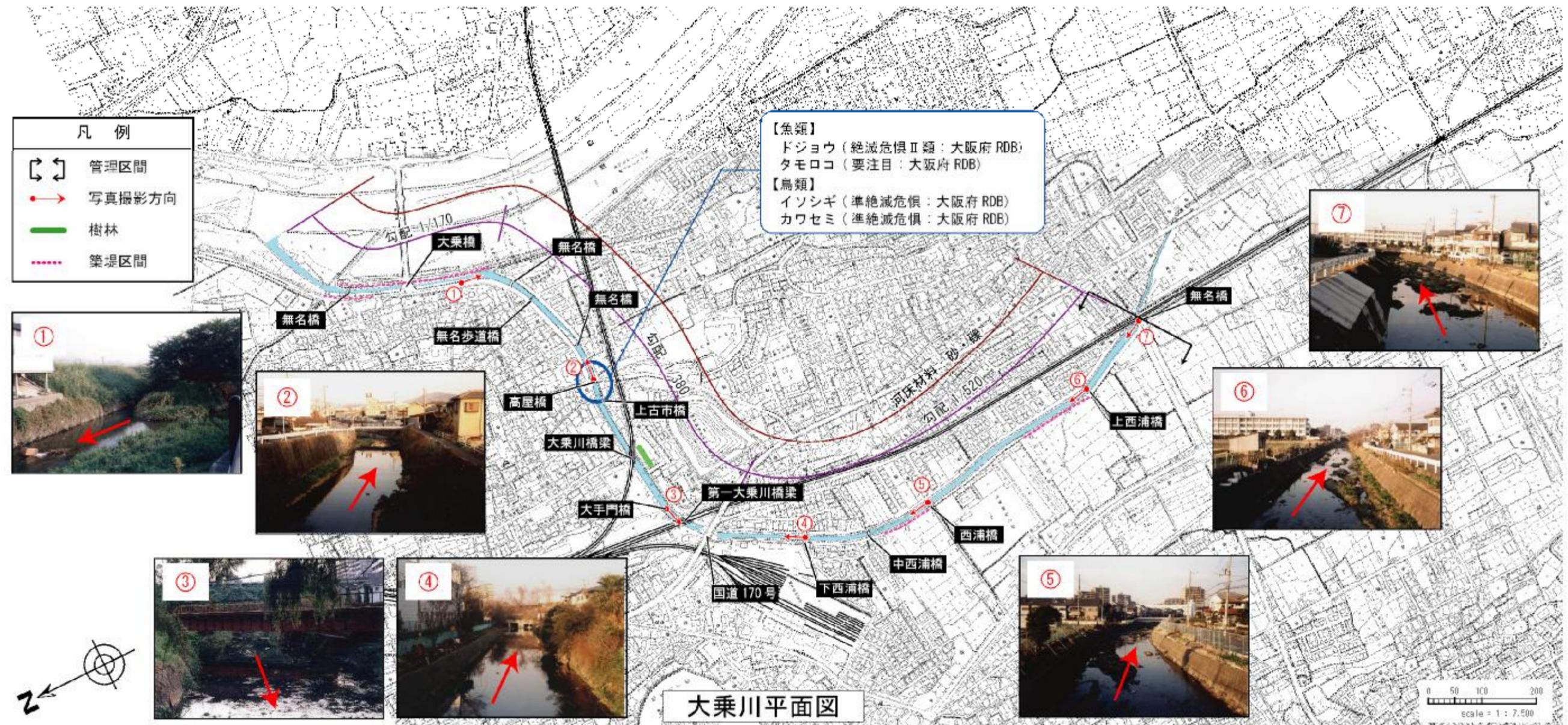
○飛鳥川

飛鳥川は、川幅が約20~30m程度、河床勾配が約1/200~1/280程度の河川です。改修済み区間では、環境に配慮された護岸が整備されています。



○大乗川

大乗川は、川幅が約 20m 程度、河床勾配が約 1/500 程度の河川です。周辺には住宅地が密集しており、都市河川の様相を呈しています。



○梅川・太井川

梅川は、川幅が約 20~30m 程度、河床勾配が約 1/200~1/400 程度の河川です。流れは緩やかであり、河道内には砂州の形成もみられます。
 太井川は、川幅が約 10m、河床勾配が約 1/150~1/200 程度の河川です。沿川には、住宅地が広がっています。



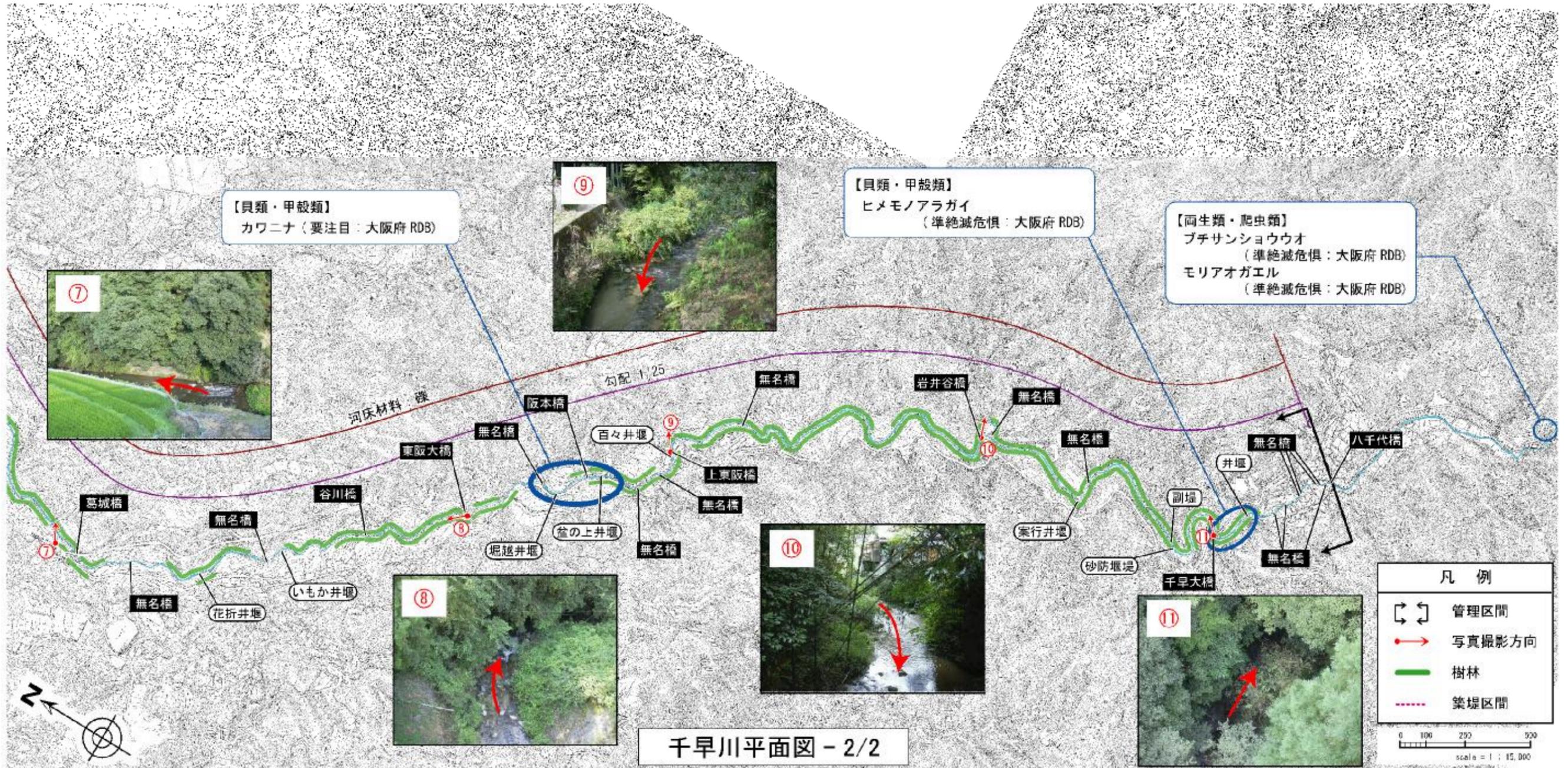


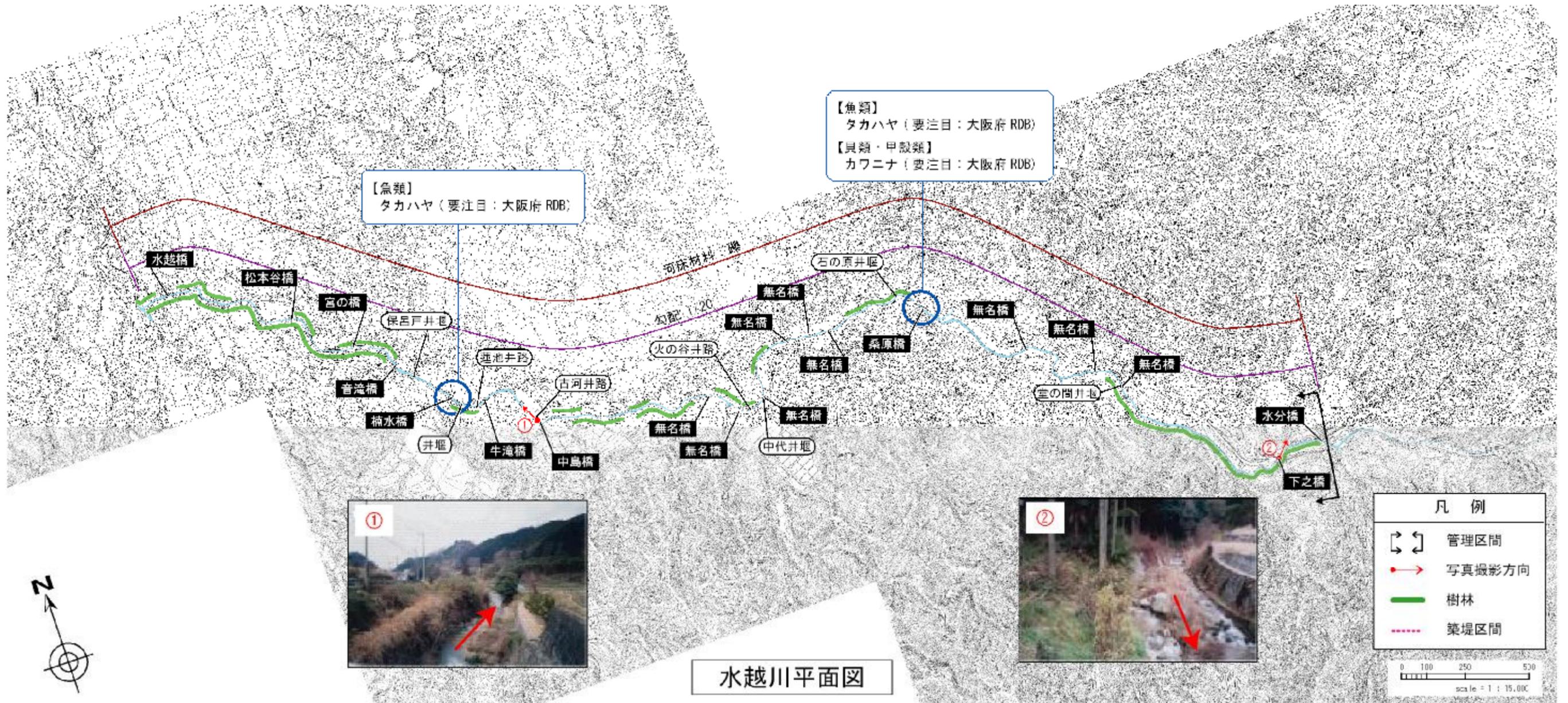
○千早川・水越川

千早川は、川幅が約 15~20m 程度、河床勾配が約 1/400~1/50 程度の河川であり、取水堰や落差工などの横断構造物が多数あります。

水越川は、川幅が約 10m 程度、河床勾配 1/20 程度の河川であり、河道の蛇行がみられます。河道内には瀬や淵が交互にみられ、河岸に樹林が迫る箇所も多くみられます。







水越川平面図

○佐備川・宇奈田川

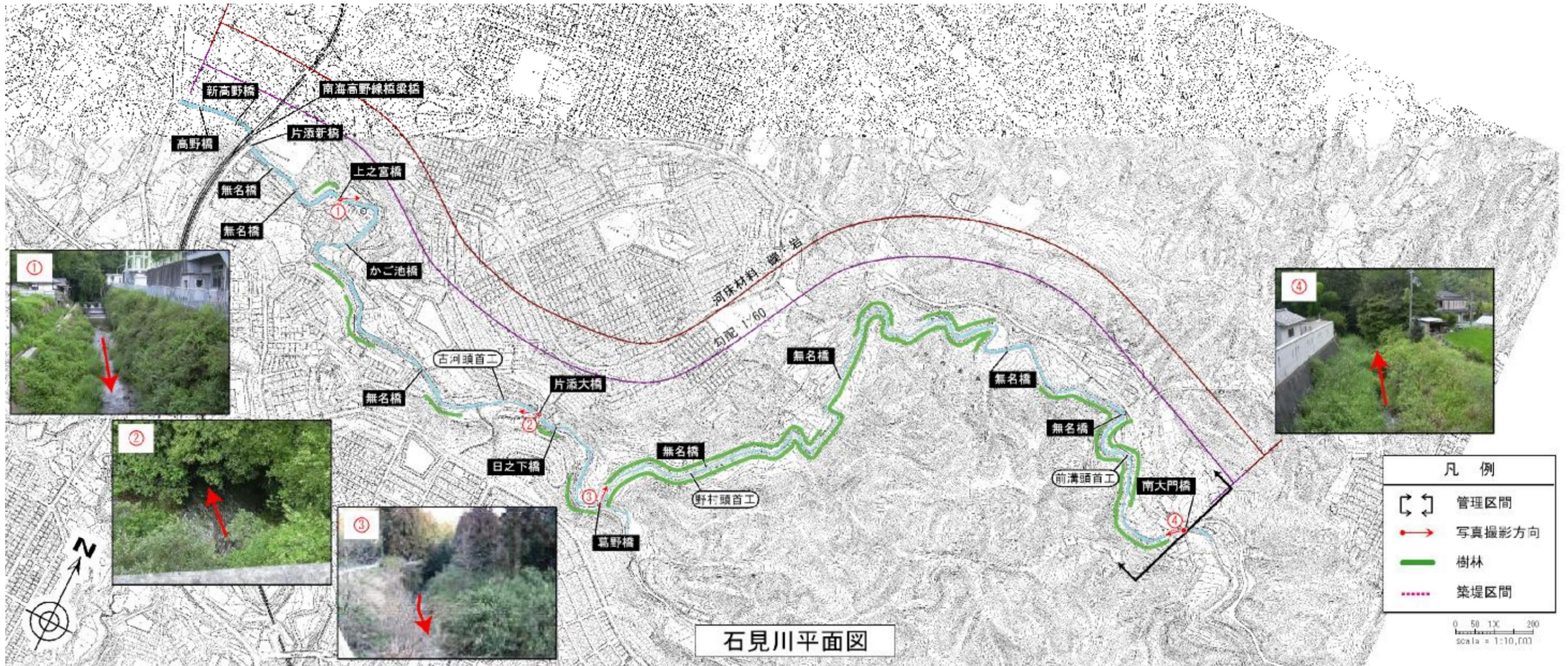
佐備川は、川幅が約10~35m程度で、蛇行を繰り返しながら田園地帯を流下しています。河床勾配は約1/200~1/300程度となっています。
 宇奈田川は、川幅が約10m程度、河床勾配が約1/750程度の河川です。沿川には、住宅地と農地が広がっています。

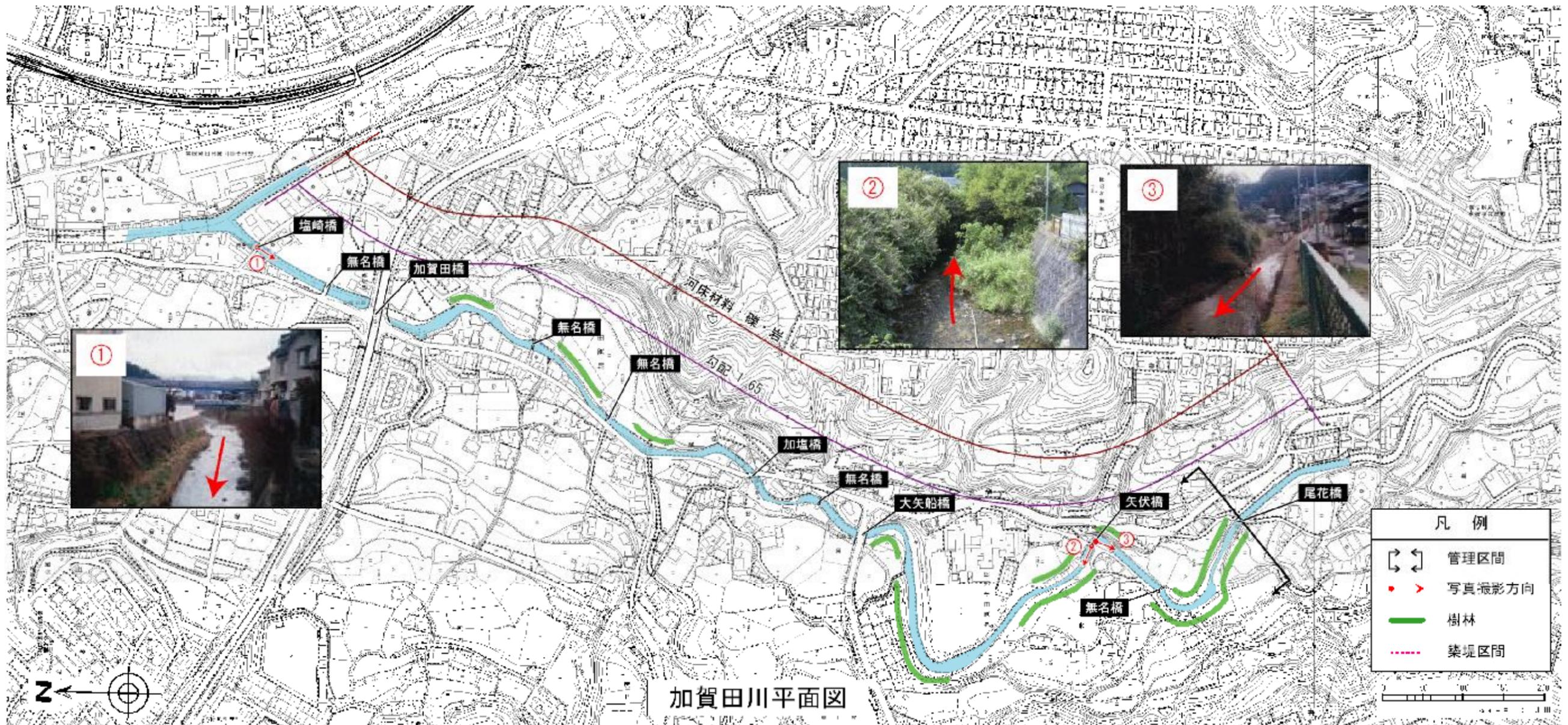


○天見川・石見川・加賀田川

天見川は、川幅が約 20m 程度、河床勾配が約 1/200 程度で、蛇行が多い河川となっています。沿川には、住宅地と農地が広がっています。
 石見川は、川幅が約 10m 程度、河床勾配が約 1/60 程度の河川です。沿川には、住宅地と農地が広がり、河岸に樹林が迫る区間もみられます。
 加賀田川は、川幅が約 20m 程度、河床勾配が約 1/65 程度の河川です。沿川には、住宅地と農地が広がり、河岸に樹林が迫る区間もみられます。







○原川

原川は川幅が10~20m程度、河床勾配が1/65~1/250程度の河川であり、西名阪自動車道より下流では周辺に住宅地が広がっています。また、最上流部の奈良県域では沿川に住宅地と農地が広がっています。

